

「第4期高砂市教育振興基本計画(素案)」パブリックコメント実施結果(一般)

高砂市教育委員会では、「第4期高砂市教育振興基本計画(素案)」について、市民の皆様からのご意見を募集しました。この資料は、市民の皆様からいただいたご意見の概要とご意見に対する高砂市教育委員会の考え方をまとめたものです。市民の皆様から寄せられた貴重なご意見を参考にしながら、今後の教育施策を推進してまいります。貴重なご意見を提出いただき、ありがとうございました。

なお、本パブリックコメントは、小・中学生も対象に実施いたしました。ぜひご覧ください。

1 意見募集期間

令和6年11月27日(水)～12月27日(金)

2 意見提出人数 7人

個人 6人 年 齢 (40歳代 1人・50歳代 1人・60歳代 2人・70歳代 2人)

提出区分 (市内在住 6人)

団体 1人

意見記入用紙1枚につき「一人」と数えています。そのため、団体で意見をまとめて提出していただいた場合も「一人」と数えています。

3 項目別件数 24件

項 目	件 数
計画全体に関連する事項	3
基本目標1 「学校教育 一人ひとりが主体的に学び、未来を切り拓く力を育む学校教育の推進」	4
基本目標2 「教育環境 多様性を包み込み、だれもが安全・安心と幸せを感じる教育環境の創造」	2
基本目標3 「生涯学習 生涯にわたって学び、学びをとおしてつながる生涯学習の充実」	14
その他	1

4 提出された意見の概要及びそれに対する市教育委員会の考え方

いただいたご意見の記載を尊重していますが、ご意見の内容が変わらない形で一部調整しているものがあります。

【計画全体に関連する事項】

No	頁	項目	ご意見の概要	高砂市教育委員会の考え方
1	12 13	全体	基本計画全般については、理念、目標、方向性（主要な取組）とブレイクダウンされ、非常に分かりやすくまとめられていると感じました。ただし、非常に広範囲であり、すべて同じレベルの取組ではなく、重要ランク付けを図り、課題の優先化、メリハリをつけたほうが良いと感じる（やる側が大変）。限られた資源の中、すべて重要でも、あえて基本計画に優先がわかるように記述することが周知するうえで大切となる。	第3期計画からの変更点として、3の基本目標を達成するための基本的方針を9に体系化し、5年間の主要な取組を24と重点化・焦点化させ、効果的で効率的な成果の創出を目指すこととしています。しかしながら、ご指摘のとおり学校教育、教育環境、生涯学習と広範囲にわたることから、達成度を図る指標（KPI）を基に、目標達成に向けた検証の質の向上を図ります。継続的な分析により24の主要な取組内容の充実を図り、教育委員会、学校が共通理解し、課題解決に向けて取り組んでまいります。
2	12 13	全体	計画については特に意見はありません。よくできた文言で、どこの市町でも通用しそうな無難な内容なのではないでしょうか。逆に言えば、作る必要性はあったのでしょうか。高砂市の教育にとって、今、喫緊の施策は何なのか。一方、本来「教育」の目指すもの、学校が取り組まなければならない「普遍的なもの」は何なのか。そういう意味では、この「基本計画」は、「出発」でなければならないはず。そして、具体的に「高砂市の教育」、教師と子どもの関係、授業はもちろん、課外の生徒指導を含めて、どのように進めていくのか。そのために教育委員会は何をするのか。そのためには、「高砂の教育現場、子どもと教師」はどうなっているのか、という現状把握が大事になると思う。机上ではなく、現実が分かれば、おのずとすることが決まってくるはずです。指導主事のみなさん、高砂市の子どもたちのために頑張ってください。	地方公共団体は、教育振興基本計画を策定する際、国や県の教育基本計画を参酌することとされています。そのうえで、高砂市の教育の現状、教育を取り巻く状況を分析し、本計画にある24の取組内容の共通理解を図り、各学校や各地域の特色を踏まえて着実に進めていくことが大切であると考え、まとめたものとなっています。本計画は目指すべき目標を定めたものであるとともに、9の基本的な方針ごとの達成度を図る指標（KPI）に対する現状をしっかりと認識して、「出発」していくことを明確にしたものと捉えています。本パブリックコメントは、一般の方のみならず、小・中学生からの意見（アンケート）も募集し、多くのこどもたちの願いを受け止めているところです。いずれのご指摘につきましても、日々の教育活動に関するご意見としても受け止めさせていただき、指導主事はもちろんのこと、教育委員会、学校、地域の皆様とともに、高砂市の教育が目指す人間像の実現を目指し、各施策を着実に展開してまいります。
3	33	推進体制	計画の着実な推進について、計画の進行管理には PDCA を回すことが基本である	第3期計画からの変更点として、「点検・評価シート」の記載内容の焦点化

			が、特にCAが大切と言われています。本計画でも述べられており、達成度を図る指標(KPI)が示されていますが、「点検・評価シート(案)」は文書での記述が多く大変さを感じます。もう少し数値評価を増やし、客観的評価ができればベストと考えます(これも、教職員が対応するなら、なおさら大変)。	があります。本計画では、継続的な検証・評価による改善を重視していることから、数値による客観的評価に加えて、記述により、取組状況、成果、改善すべき課題を明確にして共通理解を図ることが重要であると考えております。本計画では、学校への支援と働き方改革を主要な取組の一つとしています(2-2-2)。教職員の過度な負担とならない計画の策定に努めてまいります。
--	--	--	--	---

【基本目標1 「学校教育 一人ひとりが主体的に学び、未来を切り拓く力を育む学校教育の推進」】

No	頁	項目	ご意見の概要	高砂市教育委員会の考え方
1	14	1-1-1	ICT 活用の有効性については理解できるが、読解力や思考力を高めるための「読み」「書き」「そろばん」のアナログ教育を阻害することがないように注意が必要。バランスが大切で、ゼロ VS 100 は NG である。タブレットで得た情報は忘れやすく、辞書で調べたことはいつまでも覚えている。	教育委員会では、学習用タブレット端末を新たな学びの実現に向けた有効なツールと位置付け、利活用推進に取り組んでおります。同時に、主体的・対話的で深い学びを支えるコミュニケーション能力を育成する学習の充実、本を手にする機会を増やす読書活動の充実などに取り組み、ツールを有効に活用しながら、学びを深めることを大切にしていまいります。
2	14 15	1-1-1 1-1-3	「基礎基本の定着」と「探究的な学習」のいずれもが大切で、認め励まししながら身に付けていく学習が大切だと思う。	個別最適な学びと協働的な学び、また、基礎基本の定着のための反復的な学習、課題を追究する学習など、バランスよく構成していくことを大切にするとともに、学びに対する継続的な指導と評価を重ねて、着実な学力の向上に取り組めます。
3	15	1-1-3	小学校では、よく子どものことをみてくれて、一人ひとりを認める教育をしてくれているという実感がありましたが、中学校は、先生ごとの差が大きかったという印象があります。	本計画では、学力の着実な向上に向けて、指導や支援のあり方の基本姿勢として、「認め・励まし・価値付ける」指導と評価を行うと記載しております。この基本姿勢を市内小・中学校において共通理解を図るとともに、具体的な支援のあり方について、研修等と通じて理解を深め、実践につなげてまいります。
4	17	1-2-2	不登校生徒に対しては教育支援センターの機能、運用の充実や、保護者用のつどい等、関係機関の連携が図られてきていると感じます。一方、このことが発生した原因	市及び各学校で定めている「いじめ防止基本方針」には、「いじめは絶対に許さない」という決意を示しており、本計画においては、1-2-2 において、「いじ

		(特に差別やいじめ)を究明して正す教育、指導が不足してきたと感じます(教育者のリーダーシップ、志、こだわり)。特に、教員側の言動や思考が弱くなってきている。このことは、ハラスメント的指導は NG との風潮が高まり、教職員の積極的な生徒への介入が不足してきたと想像します。見方を変え、教職員への権限向上や職場環境の改善が重要と考えられる(多忙)。	めを未然に防ぐ・いじめを見逃さない・いじめから守り抜く」と、第3期計画からさらに踏み込んだ記載とし、強い決意を示しております。いじめ防止対策推進法、高砂市いじめ防止基本方針等に基づき、どのような社会にあっても、いじめは許されないという毅然とした対応を行ってまいります。また、本計画では、学校への支援と働き方改革を主要な取組の一つとしています(2-2-2)。教職員の過度な負担とならない計画の策定に努めるとともに、いじめへの対応については、学校、教育委員会、関係機関が連携を図り、組織的な対応を行ってまいります。
--	--	---	--

【基本目標2 「教育環境 多様性を包み込み、だれもが安全・安心と幸せを感じる教育環境の創造」】

No	頁	項目	ご意見の概要	高砂市教育委員会の考え方
1	23	2-2-1	「わたしたちの学年は県庁所在地名はなかった」とか、「平泳ぎの練習1回だけやってすぐにテストした」とか、授業力、教科ごとのカリキュラムは大丈夫だろうか、と感じることが多々ありました。	着実な学力の定着に向けて、学習指導要領を踏まえた教育を展開するとともに、質の高い教育を実現できるよう、授業力向上に向けた研修の実施に加えて、授業研修などの OJT の充実を図ります。また、9年間の学びと育ちの連続性・系統性を重視した小・中一貫教育カリキュラムの研究に取り組む中で、指導の方向性の共有を行ってまいります。
2	24	2-3-1	自分の子どもが通っている以外の市内の他の小学校・中学校の規模は、普通の親は知らないのに、再編といわれても、と感じる親が多いのではないのでしょうか。	未来を見据えた新たな学校づくりに向け、学校の適正規模や適正配置、学校施設のあり方などについての検討に着手しているところです。検討状況につきましては、「高砂市新たな学校づくり通信」として、市広報及びホームページに定期的に掲載するなど、積極的な情報発信に努めてまいります。今後、市民説明会等も実施する予定ですので、ぜひご参加ください。

【基本目標3 「生涯学習 生涯にわたって学び、学びをとおしてつながる生涯学習の充実」】

No	頁	項目	ご意見の概要	高砂市教育委員会の考え方
1	7	3-2-1 3-3-2	PTCA 活動への参画で、こどもたちの郷土愛の醸成や伝統文化の継承などに参画するには、どのような方法で参画できるのか、具体的に教えていただきたい。	こどもたちの郷土愛醸成などの学習支援は、令和6年度より設置している学校運営協議会委員の皆様を中心として行っています。学校運営協議会委員の方からの呼びかけ等でゲストティーチャーなどへのご参画をいただいているところです。より多様な形で学校教育活動に参画いただけるよう、学校運営協議会の今後の検討課題とさせていただきます。
2	9	3-3-1	公民館が地域交流センターと名前を変えましたが、業務の内容が大幅に変わったように感じます。公民館という役割がすべて地域交流センターに引き継がれたと考えてよろしいですか。	令和6年度より公民館（教育部所管）から地域交流センター（市民部所管）へ移行し、社会教育施設ではなくなりましたが、地域交流活動や社会教育活動など生涯学習の推進に資するための場の提供としての役割を担っております。教育委員会においても、引き続きより積極的な社会教育の展開を行ってまいります。
3	9	3-3-1	図書館の名誉館長講座の講座やゼミは非常に役立つと感じています。例えば各地域交流センターで巡回公開するなど、その成果を広く市民が参画できるような PR が必要です。	HOME TOWN ゼミ（高砂市名誉館長事業）は、高砂市の特色ある生涯学習講座として展開しております。講座への参加募集の広報や成果発表の方法等について、より、多くの方にご案内できるよう、いただいたご意見を参考とさせていただきます、検討してまいります。
4	10	3-3	目指す人間像②の人生100年時代のライフステージの実例などの情報を公開できませんか。分かれば取り入れることが多いと思います。	0歳から青年期におけるライフステージ別の主な事業については、「第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プラン（現在素案）」に示すこととしておりますが、現時点では、ライフステージごとの生涯学習事業についての公開は行っておりません。いただいたご意見は、今後の情報の公開方法等の検討の参考とさせていただきます。
5	11 12 13	3-1 ～ 3-3	基本目標3の「学びの輪づくり」の具体的な方策はどのようなものですか。学びの輪づくりの生涯学習の充実にある、3つそれぞれの方針に対応する具体的な取組内容にどのようなものを考えていますか。	学校でのこども同士の学び、家庭での学び、地域での大人とこどもの学び、大人同士の学び、そして、個人の学びなど、あらゆる人々が学びと活動に参画し、それぞれの学びが発信によってつながり、活動が広がり、活動を振り返り、

				そしてさらに学ぶという学びの輪づくりを目指します。具体的な方策として、基本的な方針 3-1、3-2、3-3 の具体的な取組内容としており、素案 26 ページから 31 ページに記載しております。各方針について2~3の主要な取組ごとに重点として取り組む各2項目を定めています。
6	26 27	3-1-1 3-1-2	学校の統廃合を考えていく時に、小中学校だけでなく、高齢者大学も併設し、核家族で関わりが少なくなった世代間交流を人工的に作っていく必要があると思います。共働きが進んでいき、家庭での教育が不足していると思われるが、学校も人員不足、ハラスメント予防として手を出さずのようなので、地域で子育てをする場をつくり、リタイアして体が元気な時にスムーズに参加できる流れを作っていただければと思います。	世代間の交流による学びは、他者を思いやることの大切さの育成につながる貴重な機会であると認識しております。子育て世帯の多様化という背景も踏まえ、地域とともにある学校づくりにより、地域ぐるみでこどもを育てる体制の強化に努めてまいります。そのために、積極的に学びをつなぐための支援の役割を行政は担ってまいります。学校施設の複合化についてのご意見をいただきました。新たな学校づくりに向けた検討や多世代の居場所としての地域開放のあり方の検討において参考とさせていただきます。
7	27	3-1-2	小学校や中学校の取組、教育活動が保護者に届きにくく、発信が上手ではないのかな、と感じることが多々ありました。	地域とともにある学校づくりや家庭との連携において、学校の教育活動の発信は重要であると捉えております。教育委員会においても高砂市教育ネットワーク(ホームページ)で各学校の取り組み状況を随時更新しておりますが、その周知についても工夫してまいります。各学校においても、ホームページでの発信を行っているところです。また、各学校でデジタル連絡ツールを導入していますが、保護者の方に取り組みのよさが伝わる発信となるよう努めてまいります。
8	28	3-2	力を入れるポイントの「伝える大人」とは、どのようなことか。大人の対象者に制約がありますか。	大人とこどもの学びの機会の充実を大切にしています。伝統文化や地域の伝統芸能などをこどもに「伝える大人」とふるさとのよさを「知るこども」の学び合いをより活発化させたいと考えております。大人の対象者に制約はありません。

9	29	3-2-1	「ふるさと高砂学を充実させ」とありますが、今の高砂学とこれからの高砂学の内容に変化は出てくるでしょうか。	現時点では、大きな変更は想定しておりませんが、より深い学びとなるよう、充実に向けた更新は随時検討してまいります。
10	30	3-1 3-3	「大人の学びである生涯学習も、より重視する必要がある。学びが循環する」という記載があるが、具体的にどう循環させるのか。	「学び→気付き→解決方法の提案→活動→さらなる学び」という学びの循環(輪)、学ぶ人同士の循環(輪)、さらに、関わる組織の広がりによる大きな循環(輪)となることを目指します。高砂市には多様な学習資源が存在しており、関係部署や機関が連携を図り、行政として、積極的に輪づくり(ネットワークづくり)を支援してまいります。
11	30	3-3-1	「生涯学習登録グループ」とはどのようなものでしょうか。登録できないと生涯学習は受け入れられませんか。	生涯学習活動を行うとともに、共に趣味や技能の習得を目指す仲間づくりを進めることを目的としたグループが継続した活動を行う場合には、生涯学習登録グループを申請いただくこととしています。登録グループ以外の方にも学習室の貸出を行っておりますのでご利用ください。
12	30	3-3-1	甲南女子大学との連携の年間計画はどこで確認できますか。	令和6年2月に甲南女子大学との連携協定を締結し、現在、同大学文学部と教育委員会で協議をしながら取り組み内容を検討し、クリエイティブタウンゼミなどの実践を実施しております。年間計画策定についてのご意見をいただきました。さらなる連携による実践・活動を積み重ねていく中での協議において、検討の参考とさせていただきます。
13	31	3-3-1	図書館や教育センターの充実とありますが、広く市民に循環できるようにお願いします。特に高齢者にとって有益な高齢者大学の利用と、学びながらの反映としての社会貢献活動の後押しもよろしくお願いします。また、カリキュラムもマンネリ化させない工夫、講師の充実も望まれる。そうすれば魅力も増すのではないのでしょうか。だれもが通る道で安心・安全の生涯学習の推進をお願いします。	情報・学習センターとしての機能の充実を図り、より多くの皆様が利用しやすい図書館を目指してまいります。教育センターにおいて実施している高齢者大学は、高齢者の生涯学習の一環として体系的な学習機会を提供しております。カリキュラムや学習成果を発表したり、社会に還元したりする工夫をするとともに、受講者の皆様の声も参考にし、より魅力ある講座づくりを行ってまいります。
14	31	3-3-1	定年後仕事をしていた時間がフリーになったので、何か習い事などをやってみようと思いました。いろいろと探して高齢者大学	高齢者大学は、現在、体系的な学習機会の提供として、継続して4年間通学するカリキュラムとなっております。ライ

			のことを近所の方から聞いたこともあり、調べてみると大学という名前がついている通り、いろいろな内容を学ばないといけないのだと分かりました。もう少し気軽に、内容を選んで参加することができたり、高齢者だけの関わりではなく、子ども世代、孫世代と関わりながら学ぶ機会があればうれしいな、と思います。	フスタイルも多様化が進んでいる背景も踏まえ、より受講しやすい仕組みの検討の参考とさせていただきます。また、多世代が交流する機会は、高齢者にとっても、こどもにとっても貴重な学びとなり、だれもが幸せを感じるウェルビーイングの向上に寄与するものと考えております。いただいたご意見は、今後の講座内容や個別の取り組みの検討の際の参考とさせていただきます。
--	--	--	---	---

【その他】

No	頁	項目	ご意見の概要	高砂市教育委員会の考え方
I			小学生から未成人対象の児童センターが必要です。思春期に一番に介入する必要があると思います。こどもの自殺者の理由も家庭内不和が一番の理由です。	ご指摘のとおり、家庭教育の重要性は認識しているところです。高砂市では、令和6年度よりこどもの総合的な相談窓口を設置し、子育ての相談体制の充実を図るとともに、子育て支援センターにおいて、土日は小学生も対象として利用対象の拡大を図っているところです。少年期、青年期のこどもが活動できる児童センター、児童館の必要性についてのご意見をいただきました。今後の多世代の居場所づくりのあり方の検討の際の参考とさせていただきます。